

麻酔科臨床研修プログラム(基本・選択)

I 臨床研修プログラムの目標と特徴

まず、最初の1ヶ月は、手術症例を通して、医師として習得すべき基本技術、知識を習得することを目標とする。気道管理、人工呼吸、静脈路確保、呼吸循環モニターの見方、解釈、ならびに、患者の病態の評価を行うことなどを主目標にする。麻酔をさらに研修したいものは、2か月以上選択することにより、麻酔に特化した技術、知識の習得をすることができる。基本的には、最初の1か月で身につけた基本的な技術知識をさらに、研鑽し、上達、習得することが目標となる。将来、後期研修においても麻酔を専攻したいもののために、より進んだ内容の技術知識の習得もできるようにする。

具体的には、合併症のある患者の状態を正確に把握すること、そして、それに応じた麻酔法（全身麻酔、硬膜外麻酔、脊椎麻酔、神経ブロックなど）の選択、麻酔薬の選択や使い方、あるいは侵襲的なモニター（動脈圧ラインの挿入、中心静脈ラインの挿入、スワングアンツカテーテルの挿入、経食道心のエコーなど）の実施、解釈などを実践していく。また手術の内容に応じた麻酔の違いについても学び、さまざまな手術に対して適切な麻酔を施行できるよう、基礎的な考え方を身につけていく。

II 研修施設と指導責任者

1. 研修施設：東京西徳洲会病院（東京都昭島市）
2. 指導責任者：國澤 卓之

III 麻酔科週間予定表（例）

	月	火	水	木	金	土
午前	術前カンファ 手術	術前カンファ 手術	術前カンファ 手術	術前カンファ 手術	術前カンファ 手術	
午後	手術 術前後回診	手術 術前後回診	手術 術前後回診	手術 術前後回診	手術 術前後回診	

- 1) 夜間・休日は、緊急手術に随時対応する

【GIO 一般目標】

1. 医療環境で信頼を受ける麻酔科医として活動できる。
2. 医師として科学的、論理的に病態が分析でき客観的に患者評価ができる。
3. 手術医療チームにおいて、麻酔科医の寄与する面は多大であり、チーム医療のリーダーとして積極的に行動でき周術期管理の質を向上させる。

【SBO 具体的目標】

1. 各種麻酔法(全身麻酔、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、伝達麻酔など)を説明できる
2. 各種麻酔法の合併症と対策を説明できる
3. 術前術後診察ができる
4. 病例に応じた麻酔計画を立てることができる
5. 麻酔に必要な物品を準備できる
6. 麻酔記録を記入できる
7. 気道確保を実践できる
8. バックマスク換気を実践できる
9. 気管挿管を実践できる
10. 人工呼吸の各種換気モードを説明し、設定できる
11. 麻酔導入、覚醒時の問題を説明し、対処できる
12. 抜管の条件を説明し、実践できる
13. 抹消静脈路を確保できる
14. 観血的動脈路を確保できる
15. 中心静脈カテーテル挿入を実践できる
16. 各種モニターを理解し、説明できる
17. 各種麻酔薬の効用、副作用を説明し、使用できる
18. 各種筋弛緩薬について説明し、使用できる
19. 各種循環作動薬について説明し、使用できる
20. 各種輸血の適応を説明できる
21. 血液製剤の適応を説明できる
22. 血液ガス分析結果を考慮し、説明できる
23. 挿管困難症例の特徴、対処法を説明できる
24. 周術期スタッフ、患者とのコミュニケーションがとれる

【LS4】学会活動

麻酔科関連の学会に出席する。多摩麻酔懇話会、日本麻酔科学会地方会、年次集会など

IV 研修評価

3段階での双方向性の評価を行う。

評価記載 A:満足できる B:標準である C:努力を要する

No.	評価項目	自己評価	指導医評価
気道管理			
1	気道の解剖を理解する、気道評価ができる。	A B C	A B C
2	さまざまな気道確保の方法の適応、特徴をあげることができる。	A B C	A B C
3	気管内挿管(経口的)ができる。	A B C	A B C
4	ラリングルマスクを挿入できる。	A B C	A B C
人工呼吸			
5	呼吸の生理学的理解。	A B C	A B C
6	バッグによる用手人工呼吸ができる。	A B C	A B C
7	人工呼吸器の構造を理解し、正しい設定ができる。	A B C	A B C
8	患者の状態に応じた呼吸器の設定ができる。	A B C	A B C
患者の術前評価			
9	患者の術前合併症の評価。	A B C	A B C
10	術前の合併症を考慮した麻酔計画をたてる。	A B C	A B C
モニターの見方と解釈			
11	モニターの種類と適応。	A B C	A B C
12	バイタルサインの正常値と異常値を言える。	A B C	A B C
13	異常値の原因を鑑別して対策をたてることができる。	A B C	A B C
14	侵襲的モニターの合併症、利点を考慮したうえで、施行できる。	A B C	A B C
全身麻酔の実践			
15	全身麻酔のしくみを理解する。	A B C	A B C
16	全身麻酔に必要な薬物について理解する。	A B C	A B C
17	全身麻酔による合併症を理解し、対策をたてられる。	A B C	A B C
硬膜外麻酔、脊椎麻酔の実践			
18	硬膜外麻酔、脊椎麻酔の生理を理解する。	A B C	A B C
19	硬膜外麻酔、脊椎麻酔の手技を理解する。	A B C	A B C
20	硬膜外麻酔、脊椎麻酔の適応と禁忌を理解する。	A B C	A B C
局所麻酔について			
21	局所麻酔薬の作用機序を理解する。	A B C	A B C
22	局所麻酔薬中毒について理解し、対応ができる。	A B C	A B C

V 研修実施期間

研修期間 年 月 日 ~ 年 月 日

研修医 : _____

指導医 : _____